

シテ毛ノアルモノ、頭ノ毛長ク後ニ垂ル、唇大ニシテ笑ヘバ、上唇ニテ目ヲ覆也、能鐵炮ヲ返ト云、  
 〔重修本草綱目啓蒙三十五類怪類〕狒狒 ヤマワロ豐前 一名頼巨人山海經 狒狒典籍 犢犢便覽 犢犢名物異

萬費同上 費費通雅 吐嘍同上 山笑廣東新語

深山中ニ棲ム、木曾及豐前、薩州、飛州、能州ニアリト聞ケリ、人形ニシテ毛アリテ猴ノ如シ、毛ハ皆  
 刺ノ如クシテ色赤シ、死スレバ脱落スト云フ、ソノ口至テ大ナリ、人ヲ見レバ笑フ、笑ヘバ上唇額  
 ニ至リ目ヲ掩フ、故ニ人竹筒中ニ手ヲ入レテ前ニ出セバ、狒狒ソノ筒ヲ握リ、笑テ唇目ヲ掩フ時、  
 筒中ノ手ヲ拔出シ、錐ヲ以テ上唇ヲ額ニ釘シテ捕ルコト、集解ニ云ヘリ、

〔爾雅註疏十一釋獸〕狒狒、如人被髮、迅走、食人、註、臯羊也、山海經曰、其狀如人、面長唇黑、身有毛、反踵、見人

則笑、交廣及南康郡山中亦有此物、大者長丈許、俗呼之曰「山都」、被音備、疏、走食、人、山海經謂之臯羊、  
 又謂之贛、周書王會云、北方謂之吐嘍、云、山海經云、海內南經文也、案彼文云、臯羊在北照之西、其  
 狀人面長唇有毛、反踵、見人笑亦笑、左手操管、又海內經云、笑則唇蔽、其目因可逃也、故郭讚云、狒狒  
 惟獸被髮操竹獲人則笑、唇蔽其目、終亦號咷、反爲我、我、是也、云、  
 反踵者、脚跟反向也、大傳云、周成王時、州靡國獻之也、贛音感、云、

〔駿國雜志 二十五〕狒々

巡村記云、志駄郡大堰河の奥深山にあり、身のたけ丈餘、唇長くして、上に反倒し、頭髮長き事、頭髮  
 をたれたるが如し、進退とき事、迅風の如し、好て獸を食ひ、篠を食ふ、故に糞中獸毛と篠のみ也云  
 云、獵師云、行人是に逢時は、身をひそめ聲を高ふすべからず、若人あるを知らば、害をなす事甚し  
 云々、或云、是狒々に非ず、山丈也云々、按るに深山幽谷の内、何ぞ山丈のみならん、狒々も又在べし、